

研究主題 思考力・表現力を育てる理数教育をめざして  
～ 見方・考え方を働かせる活動を通して ～

研究内容のPointは、「学習の分かりやすさ」と「学習の徹底」！  
「全体への指導」と「個に応じた指導」！

全体への指導

- 授業づくり
  - ・見方・考え方を働かせる活動の工夫  
理由や根拠を明らかにして考えるようにします。
  - 「なぜ?」「どうして?」「どこから?」
  - ・ノート指導の充実  
基本のノートの型を示して書き方を身に付けさせます。
- 学習の徹底
  - 授業  
授業のゴールを明らかにします。  
練習問題などは全員ができているか確認して、間違いやつまずきの有無を明らかにします。  
つまずきに応じて手立てを講じます。  
単元の学習内容を網羅したプリントを作成して、取り組ませます。
  - ドリルタイム(13:30~13:40)  
課題のあるところを中心に復習をします。  
低学年では、問題場面を表した絵から問題をつくる活動をします。
  - 家庭学習  
授業の内容と関連した学習課題や自主勉強に取り組みさせます。  
直しは、声掛けをして、その日のうちにやり切らせます。
- 学習環境の整備  
学習のあしあとを教室や廊下に掲示します。  
児童のよいノートも掲示します。

個に応じた指導

- 授業  
算数科の授業は、全学年、担任と担任以外の教員で行います。担任以外の教員は、学力に大きな課題がある児童を中心に支援をします。  
支援の内容や方法、児童の様子を記録し、児童のつまずきと手立てについて担任と連携します。
- ドリルタイムのフォローアップ(13:30~13:40)  
学力フォローアップ教員等が、学級に入り、学力に大きな課題がある児童の個別指導をします。
- 給食前のフォローアップ(12:05~12:20)  
学年を絞り、学力に大きな課題がある児童と算数を大好きにしたい児童が自由に参加して算数のつまずきを解消するための課題に取り組みます。図書室で担任以外の複数の教員が指導します。

効果のあった事例1 ~1年国語科 ひらがな・簡単な文を書く~

- 児童の実態  
平仮名を覚えることが苦手で、形をとりにくい。音が不明瞭なところがあって、書き間違いをする。
- 手立て
  - ① 児童机にラミネートした「五十音表」を貼る。  
(児童に確かめてから貼る。)
  - ② 平仮名積み木の貸し出しをする。  
(保護者に言葉遊びの協力を依頼)

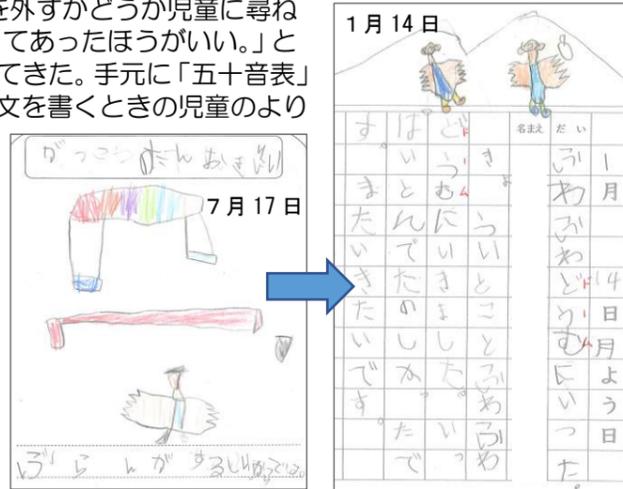


児童机に貼った「五十音表」

- ③ 絵日記(9月~)
  - ・ 1週間に1回絵日記を書く宿題を出す。(保護者の協力)
  - ・ 書き方のポイントや例文を示す。(絵日記を綴じるファイルの内側に貼る。)
  - ・ 3文で書けていないときには、教師が声掛けをして児童が話したことを付け加えさせる。

■児童の変容

- 「五十音表」を見なくても平仮名が書けるようになった。  
「五十音表」を外すかどうか児童に尋ねたところ、「貼ってあったほうがいい。」という言葉が返ってきた。手元に「五十音表」があることが、文を書くときの児童のよりどころとなった。
- 平仮名の形が崩れたり脱字があったりしたが、1月の絵日記では、平仮名の形が整ってきて3文で書けるようになった。



児童の記述(7月)

児童の記述(1月)

効果のあった事例2 ~2年国語科 正しい漢字を書く~

■児童の実態

漢字の字形を正確に捉えることが難しい。横画や縦画の数を間違えて正しく書くことができない。

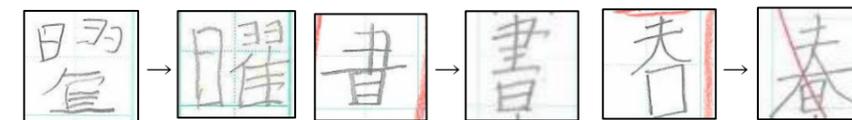
■手立て

- ① 教材の工夫
  - ・ 漢字の細部に気付きやすくするため、漢字ドリルを1.5倍に拡大したプリントを活用する。
  - ・ 字形を捉えられるように、蛍光ペンで書いた漢字を鉛筆でなぞれるようにする。
- ② 一斉指導での工夫
  - ・ 新出漢字の学習で、とめ・はね・はらい等の気を付ける部分や間違えやすい部分をチョークで色分けして板書する。
  - ・ 間違った漢字を板書して、間違い探しをする。
- ③ 定着させるための工夫  
登校して始業準備が終わった児童から順に、家庭学習の内容に合わせた3問のミニ漢字テストをする。



■児童の変容

- ・ あいまいだった部分を正確に捉え、正しい漢字が書けるようになった。
- ・ 4月に書いた字と比較させることで字の変化に気づき、整った漢字を書こうという意欲をもつことができた。



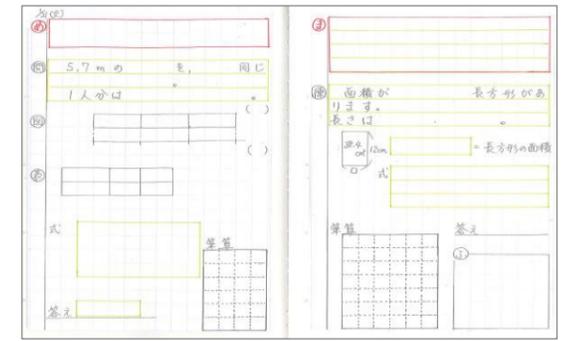
効果のあった事例3 ~4年算数科 算数のノート指導~

■児童の実態

文字を書くことに抵抗がある。文字の形が整わない。また、ノートの使い方が身に付いていない。

■手立て

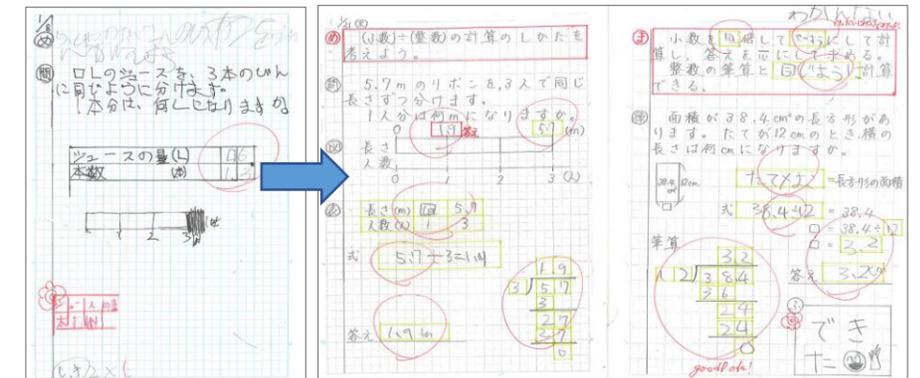
- ・ 児童の実態に応じて児童用のノートづくりをする。
- ※板書とリンクさせる。
- ※1時間の授業内容を1ページに収める。
- ※問題文の一部を書いておく。
- ※筆算を書く場所は点線で分ける。



手立てを書き入れた児童ノート

■児童の変容

- ・ 枠の中に文字をおさめて書くようになった。
- ・ 内容を落とさず書くようになった。
- ・ 筆算では、計算の間違いが少なくなった。



手立て前の児童のノート

手立て後の児童のノート

効果のあった事例4 ~5年家庭学習~

■児童の実態

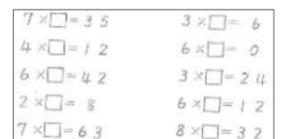
家庭学習の習慣が身に付いていない。文字を書くことに抵抗がある。九九を覚えていない。

■手立て

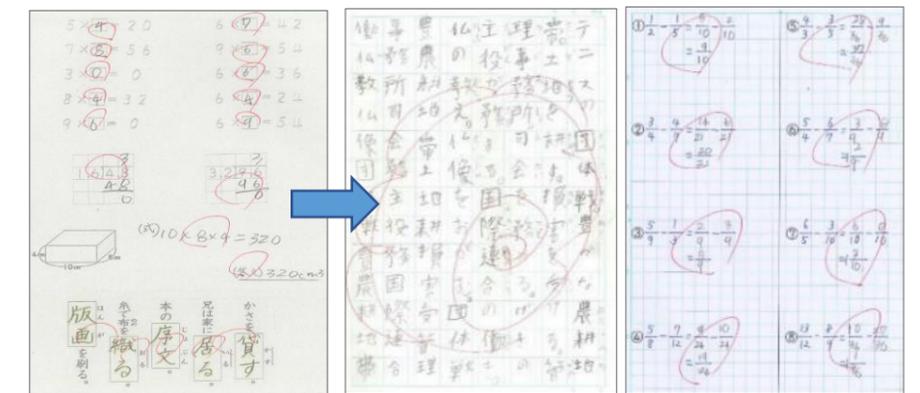
児童の実態に応じて宿題プリントを作成し、取り組ませる。(穴あき九九、簡単な小数のわり算、漢字のなぞり書き)

■児童の変容

- ・ 九九を正確に覚え、簡単な小数のわり算ができるようになった。11月から算数の授業で学習している問題を取り入れる。
- ・ 2月になって、A児から「みんなと同じ宿題をしたい。」と言ってきた。他の児童と同じ宿題をしてもらうようになった。



A児の家庭学習プリント【4月~10月】



A児の家庭学習プリント【11月~1月】

A児の家庭学習【2月~】